

北岳

南アルプスの最高峰

日本の最高峰である高さ 3,776 メートルの富士山は多くの人に知られていますが、日本で二番目に高い北岳の知名度はそれほど高くありません。高さ 3,193 メートルの隠れた名峰、北岳（north peak）はハイカーや自然愛好家が訪れるのを待っています。

英国人探検家たちの愛した山

日本には、日本アルプスと総称される三連の山脈、北アルプス・南アルプス・中央アルプスがあります。1800 年代後半、ウィリアム・ゴーランド（1842-1922）というイギリス人技師兼考古学者が北アルプスとも呼ばれる飛騨山脈に登りました。起伏に富んだ稜線はゴーランドにヨーロッパの山岳を思い起こさせたため、彼は周辺の山々を「日本アルプス」と呼びました。この名称は、日本における娯楽としての登山の父とされる宣教師ウォルター・ウェストン（1860-1940）によって広く知られるようになりました。1902 年、ウェストンは南アルプスの山々のうち、北岳を含む 5 峰に登りました。

北アルプスと中央アルプスには、周囲の土地を見下ろしてそびえ立ち、何百年にもわたって巡礼の地であった霊峰が数多くあります。日本とヨーロッパの登山家たちが最初に踏破したのは、これらのよく目立つ山々でした。対照的に、南アルプスの高峰は、プレートの隆起によって褶曲した地形や谷で隠されているため、19 世紀までは登ったり地図が作られたりすることがありませんでした。

秘峰

1880 年以前に北岳が登山されたという記録は残っていません。この秘峰は明治時代（1868-1912）に政府が招聘した海外の専門家が日本全国の山を調査し始めてからようやく世に知られるようになりました。もちろん、地元の住民、特にうっそうとした山林で林業を営む人々は、何百年にもわたって南アルプスの低い地域の斜面を行き来してきました。しかし、深い谷と険しい山道に阻まれたその先を探検しようという人はあまりいなかったようです。

ハイキングスポットとしては比較的歴史が浅いにも関わらず、北岳は現在山好きの人々たちに揺るぎない人気を博しています。名著とされる山岳随筆集『日本の百名山』の筆者、深田久弥は、北岳について「白峰三山（南アルプスで最も高い三峰）の中でも、北岳は形がスッキリしていて、清秀な高土のおもかげがある」「富士山の大通俗に対して、こちらは哲学的である」と述べています。天に向かって突き刺す槍のような山頂と難度の高い登山道により、北岳は日本百名山の一山に数えられています。

北岳の東側の斜面には、北岳バットレスという山頂まで約 600 メートル続く圧巻の岩壁があります。南東の斜面には、北岳にちなんで名付けられたキタダケソウ（*Callianthemum hondoense*）という高山植物の固有種が生育しており、運が良ければ 6 月下旬にその繊細な白い花を目にすることができます。

北岳登山は、山小屋またはキャンプ場で一泊し、二日間に分けて行うのが最適です。北アルプスに比べると南アルプスの降雪量は多くありませんが、最も安全に登山を楽しめる時期は 6 月下旬から 10 月下旬です。